



軽防協ニュース速報

2022年第2四半期(4月-6月)の伝染病発生状況

2022年9月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2022年第2四半期(4月-6月)の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定(リアルタイム)のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に*印または#印を付して示されている。ICC 暫定(リアルタイム)のレポートは、equinesurveillance@gmail.com から受信登録を行うことで e-mail による受信が可能となる。また、<https://equinesurveillance.org/iccview> のページ内にも、同内容のレポートや最新の流行状況が掲載されている。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1件の発生で複数症例を含むものがある。

2022年第2四半期の概要

13か国(北米:2か国、欧州:10か国、アジア:1か国)において、合計で191の疾病発生が報告された。発生した18の疾病のうち、最も多くの発生を認めたのは腺疫(77頭)で、次いで神経型 EHV-1(19頭)の発生を多く認めた。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1	EHV-4	馬パラチフス	S.zoo
ベルギー	-	2	1	-	2
フランス	1	2	-	-	-
ドイツ	14	-	-	-	-
日本	-	1*	-	1*	-
オランダ	-	1	-	-	-
イギリス	-	2	2	-	-
アメリカ	-	1	-	-	-

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

馬伝染性子宮炎（CEM）

フランス

カルヴァドス県において、12歳のセルフランセ種1頭の発生を認めた。陽性診断は生殖器スワブを用いた細菌培養によって行われた。

ドイツ

バイエルン州、ヘッセン州、ニーダーザクセン州、ノルトライン・ヴェストファーレン州、シュレスウィヒ・ホルスタイン州において、計14件の発生があり、うち1件は3例の発症、他13件は単独発症であった。陽性診断は生殖器スワブを用いたPCR検査によって行われた。

馬ヘルペスウイルス1型（EHV-1）による流産

ベルギー

アントウェルペン州およびエノー州において、2件の単独発症を認めた。いずれも妊娠10か月での流産であった。陽性診断は胎子の肺および肝臓組織を用いたPCR検査にて行われた。

フランス

カルヴァドス県、マンシュ県で2件の単独発症を認めた。1件目は9歳のフレンチトロッター種牝馬、2件目はワクチン接種済みの6歳のトロッター種牝馬における発症であった。陽性診断は胎子および胎盤組織を用いたPCR検査にて行われた。

日本

*1件の発生があり、同一施設内の2頭のワクチン接種済みサラブレッドにおける発症であった。LAMP法によって陽性を確認した。

オランダ

ヘルデルラント州において1頭の発症を認め、胎子の肺組織を用いたPCR検査にて陽性診断が行われた。同施設内には、流産を認めた繁殖牝馬が他に3頭いた。

イギリス

サマセット州およびバンフシャー州において、2件の単独発症を認めた。前者はワクチン未接種の13歳のスポーツホース種牝馬、後者はワクチン未接種の14歳のオランダ温血種牝馬における発症であった。陽性診断は胎盤および胎子組織を用いたPCR検査にて行われた。バンフシャー州の発生においては、この流産症例に先立ち、同施設内で発症馬と接触があった馬25頭のうち、妊娠馬7頭中2頭が流産、1頭が疝痛により死亡した。

アメリカ

ウィスコンシン州において、ワクチン未接種のスタンダードブレッド種牝馬 1 頭の発症を認め、胎子組織および胎盤を用いた PCR 検査にて陽性診断が行われた。また、他にも複数の牝馬に流産を認めたことで、オーナーは管理している馬群のワクチン接種計画を開始した。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による流産

ベルギー

フラムス・ブラバント州において 1 頭の発症を認めた。妊娠 9 か月での流産であった。陽性診断は胎子の肝臓および肺組織を用いた PCR 検査によって行われた。

イギリス

サフォーク州およびウィルストシャー州において 2 件の単独発症を認めた。それぞれワクチン未接種のサフォークパンチ種牝馬およびワクチン未接種の非サラブレッド種 5 歳牝馬での発症であった。陽性診断は胎子および胎盤組織を用いた PCR 検査にて行われた。また、いずれの施設においても他に妊娠馬を飼養しており、防疫的措置を実施した。

馬パラチフス

日本

*非サラブレッド種 1 頭に発症を認め、病原体分離によって陽性を確認した。

S.zooepidemicus による流産

ベルギー

エノー州およびリンブルフ州において、2 件の単独発症を認めた。それぞれ妊娠 8 か月および 10 か月での流産であった。陽性診断は胎子肺および肝臓組織を用いた PCR 検査にて行われた。

呼吸器疾患

発生国	EHV-1	EHV-4	EHV-5	EHV 混合感染	EI	腺疫
ベルギー	-	-	2	3	-	-
フィンランド	-	-	-	-	1	-
フランス	-	6	-	-	-	12
ドイツ	-	-	-	-	1	-
イタリア	-	2	-	-	-	-
オランダ	-	4	-	-	2	22
スイス	1	-	-	-	-	8
イギリス	-	6	-	-	-	-
アメリカ	1	-	-	-	8	35

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による呼吸器感染症

スイス

グラールス州において、1件の発生を認めた。臨床症状は発熱や呼吸器症状などで、PCR検査にて陽性を確認した。

アメリカ

ノースカロライナ州において1頭の発症を認めた。臨床症状は発熱、倦怠、食欲減退などであった。

馬ヘルペスウイルス4型 (EHV-4) による呼吸器感染症

フランス

オード県、オーラン県、ロワールアトランティック県、ローヌ県、バンデー県およびイブリーヌ県において、計6件の単独発症を認めた。発熱、発咳、鼻汁、リンパ節腫脹などの臨床症状を認め、症例のほとんどは鼻咽頭スワブ、1例は気管洗浄液を用いたPCR検査にて陽性を確認した。

イタリア

レッチェ県およびペルージャ県において、2件の単独発症を認めた。

オランダ

ドレンテ州、リンブルフ州およびノールトホラント州において、主にワクチン未接種馬で計4件の発生を認め、1件は2例、他3件は単独での発症であった。臨床症状は発咳、呼吸困難、リンパ節腫大、鼻汁、倦怠、発熱、泌乳量減少などで、鼻咽頭スワブを用いたPCR検査にて陽性を確認した。なお、2例の発症を伴った発生においては、いずれの牝馬も生後4日目に子馬を失っていた。

イギリス

エアシャー州、グロスターシャー州、ケント州およびウスターシャー州において計6件の発生が報告され、1件は2例、他5件は単独での発症であった。発咳、食欲不振、倦怠、リンパ節腫脹、発熱、鼻汁などの臨床症状を認め、鼻咽頭スワブを用いたLAMP検査またはPCR検査にて陽性が診断された。

馬ヘルペスウイルス5型 (EHV-5) による呼吸器感染症

ベルギー

アントウェルペン州および東フランダース州において、2件の単独発症を認めた。うち1件については、EHV-2との混合感染であった。臨床症状は発咳や鼻汁などで、鼻腔スワブを用いたPCR検査にて陽性が診断された。

馬ヘルペスウイルス（EHV）の混合感染

ベルギー

エノー州および東フランダース州において、3件の単独発症を認めた。1件目は1歳馬におけるEHV-1、EHV-2、EHV-4およびEHV-5の混合感染、2件目は10か月齢の子馬におけるEHV-2およびEHV-5の混合感染、3件目は12歳の馬におけるEHV-2およびEHV-5の混合感染であった。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、鼻汁および発熱などで、鼻咽頭スワブを用いたPCR検査にて陽性が診断された。

馬インフルエンザ（EI）

フィンランド

ウーシマー県において、直近で輸入された6歳の騾馬に発症を認めた。qPCR検査にて陽性が診断された。

ドイツ

ノルトライン・ヴェストファーレン州において、17例の感染を伴う1件の発生が報告された。臨床症状は発熱や鼻汁などで、鼻腔スワブを用いたPCR検査にて陽性が診断された。7月24日に最初の7頭の発症が報告され、次いで7月30日にさらに10頭の発症報告があった。

オランダ

ヘルデルラント州のワクチン未接種馬において、2件の単独発症を認めた。臨床症状は発咳、発熱、リンパ節腫大、鼻汁などで、鼻咽頭スワブのPCR検査によって陽性を確認した。発症馬のうち1頭は1か月前に輸入されたばかりで、取引業者を通じて現在の所有者に購入されていた。

アメリカ

コロラド州の野生馬やロバを管理する施設において、129頭の死亡が確認された。ウィスコンシン州の3郡でそれぞれ単独発症が報告された。さらに6件の単独発症がカンザス州、ニューヨーク州、オレゴン州、ロードアイランド州、ワイオミング州の5州で認められた。臨床症状は発咳、呼吸困難、食欲不振、鼻汁、発熱などであった。

腺疫

フランス

アルデンヌ県、オード県、シャラントマリタイム県、コートダモール県、エソンヌ県、ウールエロワール県、ジェル県、イゼール県、ロワールアトランティック県、ノール県、ソーヌエロワール県において、計12件の発生を認め、1件は2例、他11件は単独の発症であった。臨床症状は膿瘍形成、発咳、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱などで、スワブ（鼻咽頭および採取部位不明）、喉嚢洗浄液を用いたPCR検査にて陽性を確認した。

オランダ

ドレンテ州、フレボラント州、ヘルデルラント州、フローニンゲン州、リンブルフ州、ノールトブラバント州、オーファーアイセル州、ゾイトホラント州、ユトレヒト州において、計 22 件の発生を認め、うち 1 件は 5 例、3 件は各 2 例、他 18 件は単独での発症であった。臨床症状は膿瘍形成、発咳、下顎・咽頭リンパ節の腫大、倦怠、鼻汁、発熱、食欲減退などで、多くは鼻咽頭などのスワブ、1 例は喉嚢洗浄液を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

スイス

計 8 件の発生を認め、1 件は複数例、7 件は単独の発症であった。臨床症状は衰弱、発熱、呼吸器症状、顎下腺膿瘍などで、PCR 検査または LAMP 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

フロリダ州、ミシガン州、オハイオ州、ワシントン州およびウィスコンシン州において、計 35 件の発生が報告された。臨床症状はリンパ節の膿瘍形成や排膿、発咳、食欲減退、下顎リンパ節腫大、倦怠、リンパ節腫脹、鼻汁、発熱、顎下腺膿瘍、上気道症状などであった。

消化器疾患

発生国	馬コロナウイルス	ローソニア	ロタウイルス
フランス	-	-	2
リヒテンシュタイン	-	1	-
スイス	1	-	-

馬コロナウイルス

スイス

シャフハウゼン州において、1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱などで、糞便を用いた PCR 検査により陽性を確認した。

ローソニア

リヒテンシュタイン

スイスとの国境に位置するリヒテンシュタイン公国において、1 件の発生を認めた。臨床症状は発熱や呼吸器症状などで、PCR 検査によって陽性を確認した。

ロタウイルス

フランス

マイエンヌ県およびオルヌ県において、2件の単独発症を認めた。臨床症状は下痢、沈鬱、食欲不振、発熱などで、直腸スワブや糞便を用いたPCR検査によって陽性を確認した。

神経疾患

発生国	EEE	EEV	EHV-1	日本脳炎	狂犬病	WNV
オーストラリア	-	-	-	複数	-	-
オーストリア	-	-	1	-	-	-
ドイツ	-	-	1	-	-	-
イタリア	-	-	1	-	-	-
南アフリカ	-	1*	1*	-	-	1*
スイス	-	-	1	-	-	-
イギリス	-	-	2	-	-	-
アメリカ	4	-	13	-	1	1

*ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

東部馬脳炎 (EEE)

アメリカ

フロリダ州のワクチン未接種馬やしばらく接種がなかった馬を中心に、4件の単独発症を認めた。臨床症状は不安がる、沈鬱、頭部を壁に押し付ける、協調不全、筋痙攣、発熱、無気力状態や眼振を伴った横臥、発作、腰痠、起立不能などであった。

馬脳症ウイルス (EEV)

南アフリカ

*南アフリカの風土病である本病の発生が、以下の6つの州にて確認された。フリーステイト州 (1例)、ハウテン州 (17例)、クワズール・ナタール州 (5例)、ムプマランガ州 (2例)、ノースウエスト・プロヴィンス州 (1例) および西ケープ州 (7例)。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

オーストリア

スイスとの国境付近において、1頭の発生を認めた。臨床症状は発熱や中枢神経症状などで、PCR検査にて陽性を確認した。

ドイツ

ノルトライン・ヴェストファーレン州において、1頭の発生を認めた。臨床症状は馬尾症候群や運動失調などで、鼻咽頭スワブを用いたPCR検査にて陽性を確認した。

イタリア

トレヴィーゾ県において 1 頭の感染を認めた。

南アフリカ

*ハウテン州において 1 頭の感染を認めた。

スイス

シュウィーツ州において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱、中枢神経症状などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

イギリス

ウスターシャー州およびウィルトシャー州において、2 件の発生が報告された。ウスターシャー州における発生は、直近で入厩してきた 9 歳のワクチン未接種サラブレッド馬での発症であった。同馬は両側性の結膜炎、倦怠、軽度の運動失調などの症状を示した。鼻咽頭スワブを用いた検査では EHV-1 および EHV-4 のいずれも陰性であったが、血液検体を用いた CF 試験において直近で EHV に暴露されていたことが確認された。同施設内に繋養されていた 70 頭中、合計で 23 頭が何らかの臨床症状を示し、うち 16 頭は、程度は様々だがいずれも神経症状を認め、感染馬のうち 2 頭は安楽死となった。ウィルトシャー州における発症は、ワクチン接種済みのサラブレッド 7 歳馬での発症で、腰痠や膀胱麻痺を認めた。同馬については鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

カリフォルニア州、ミシガン州、ニューヨーク州、オハイオ州、オレゴン州、ペンシルベニア州、テキサス州において、計 13 件の発生があり、うち 2 件は 2 例（1 件は口バ 2 頭の発症による）、1 件は別々に発症した 2 例、他 10 件は単独発症であった。臨床症状は運動失調、膀胱出血、疝痛、起立不能、脚部浮腫、神経症状、発熱、横臥、尿滴下などであった。

日本脳炎

オーストラリア

2022 年 5 月、ニューサウスウェールズ州政府によって、ノースコースト、ハンター、グレーターシドニー、セントラルウエスト、リバーナローカルランドサービスの馬において、日本脳炎ウイルスの感染の形跡があることが明らかにされた。オーストラリアには日本脳炎ウイルスを媒介する種類の蚊が豊富に生息しているが、馬は本ウイルスの終末宿主である。

狂犬病

アメリカ

オクラホマ州において、ワクチン未接種のクォーターホース騙馬に発症を認めた。重度の神経症状などを示し、安楽死となった。同馬と放牧地を共有していた他3頭の馬は、公式に6か月の検疫を受けることとなった。

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

南アフリカ

* フリーステイト州において、1頭の感染を認めた。

アメリカ

テネシー州のワクチン接種が不十分な22歳のペイントホース騙馬に発症を認めた。進行性の運動失調や横臥などを示し、安楽死となった。

その他の疾患

発生国	AHS	炭疽	EIA	レプトスピラ	ハト熱	ピロプラズマ症
カナダ	-	-	4	-	-	-
フィンランド	-	-	-	-	-	1
フランス	-	-	-	1	-	-
ドイツ	-	-	-	-	-	1
イタリア	-	-	3	-	-	-
カザフスタン	-	1	-	-	-	-
南アフリカ	1*	-	-	-	-	1*
アメリカ	-	-	8	-	1	-

* ICC 暫定レポートを通じては報告されなかったが、四半期末に報告があった追加情報

アフリカ馬疫

南アフリカ

* AHS は西ケープ州の AHS 管理地域を除いて、南アフリカで常在している感染症である。2022 年第 2 四半期においては、全ての州で発生が確認された。西ケープ州での発生については、AHS 管理区域外のものである。発生内訳は以下の通り。東ケープ州（6 例）、フリーステイト州（6 例）ハウテン州（50 例）、クワズール・ナタール州（12 例）、ムプマランガ州（3 例）、北ケープ州（5 例）、ノースウエスト・プロヴィンス州（9 例）、西ケープ州（1 例）、リンポポ州（1 例）。

炭疽

カザフスタン

ジャンプール地区のカロイ村において1頭の発症を認め、同馬は死亡した。陽性診断は細菌培養によって行われた。同馬と接触があった馬は40頭いた。

馬伝染性貧血 (EIA)

カナダ

アルバータ州およびサスカチュワン州において、4件の発生を認め、1件は5例、他3件は単独での発症であった。感染馬のうち1頭は臨床症状を示したことで検査を行い、他3件については繁殖入り前、イベントの入国要件、輸出要件による検査を行って陽性確認された。

イタリア

ラツィオ州およびアブルッツォ州において、計3件の発生を認め、うち1件は別々に2例が発症、他2件は単独での発症で、1件はラバにおける発症であった。

アメリカ

カリフォルニア州、アイオワ州、テキサス州およびオハイオ州において、計8件の発生があった。うち1件が24例、他7件は単独の発症を認めた。うち3頭は安楽死となった。

レプトスピラ

フランス

オルヌ県において、6歳のセルフランセ種牝馬において感染を認めた。眼房水を用いたPCR検査にて陽性を確認した。

ハト熱

アメリカ

ワシントン州キング郡において、1頭の感染を認めた。

馬ピロプラズマ症

フィンランド

ポルナイネン（ヘルシンキ郡）において、5歳のルシターノ種牝馬に感染を認めた。ELISAにより陽性を確認した。

ドイツ

スイスとの国境付近において、1頭の発症を認めた。臨床症状は発熱などで、PCR検査および血清学的検査によって陽性を確認した。

南アフリカ

*ピロプラズマ症は南アフリカの風土病として知られており、9つの州のうち、ノースウエスト・プロヴィンス州を除く以下の8つの州で発生が報告された。ハウテン州（1例：*B.caballi*）、その他 *T.equi* による発症が東ケープ州（1例）、フリーステイト州（2例）、ハウテン州(25例)、クワズール・ナタール州(3例)、ムプマランガ州(2例)、北ケープ州（4例）、西ケープ州(8例)、リンポポ州（3例）。